

令和3年度自己点検自己評価まとめ

I. 学校経営

【内容】

1. 学校のビジョンおよびそれを実現するための組織目標を作成しており、かつ、その目標が教職員に理解されているか。
2. 組織目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。
3. 学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。
4. 管理職のリーダーシップのもと、各リーダーがそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮し問題解決に当たっているか。

【評価】

5点満点中4.0であり、令和2年度より0.2ポイント高い結果であった。

前年度に引き続き、校長より年間目標が示され、それに基づき領域会議・各委員会会議にて、中長期目標を策定している。さらに、各自個人にて年度目標を策定し、目標管理シートの作成を実施している。また、教員ラダー制度の到達目標に基づき、中間評価（自己評価・他者評価）を行い、その結果を後期に活用している。

学校関係者評価を実施し、ホームページにて公表している。また、その結果から改善計画を策定し、次年度の目標につなげている。

教員会議は定期的に行うことができ、情報共有及び教員間のコミュニケーションの活性化を図ることはできた。臨床検査学科との統合や定員増の準備等により、会議回数が増えたため、教職員会議の開催に関しては、前年度に引き続き課題とする。

II. 教育課程・教育活動

【内容】

1. 卒業時においてもつべき看護師の資質を、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。
2. 学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。
3. 授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。
4. 効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。
5. 授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。
6. 学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。
7. 実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。
8. 実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。

9. 学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。
10. 実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。
11. 実習時のインシデント、アクシデント等を分析し、学生指導に生かしているか。
12. 学生による授業評価および教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。

【評価】

5点満点中4.0であり、令和2年度より0.1ポイント高い評価であった。

1) 教育課程編成に関すること

(1) 令和4年のカリキュラム改正に向け学校の独自性や社会の要請に応じた教育課程を編成し、県に申請し承認を得ることができた。(科目間の重複が多いという評価から、領域横断科目を設定した。また、看護技術の教育を本校の柱とした独自性のある教育課程を構築することができた。) 領域横断科目の設定は埼玉県内の3年課程の学校において3校のみの設定であり、非常に独自性の高いカリキュラムであると考えます。

(2) 前年度に引き続き、看護技術の到達度評価を実施した。今後新旧カリキュラムの学生が混在する為、新旧カリキュラムの評価を行い、カリキュラム評価表(ルーブリック)の作成を課題とする。

2) 実習に関すること

前年に引き続き新型コロナウイルスの影響で、臨地実習ができず学内で代替えた実習が多数生じた。前年度の課題から、よりリアルな学内実習を行うため卒業生にSPを依頼し、臨場感のある学内実習が実施できた。また、シミュレーターの活用や今年度から導入した学習用電子カルテシステムの活用が、実習目標の達成に大きく役立った。

コロナウイルス蔓延による厳しい状況下においても、実習を受け入れて下さった施設とは、情報交換を常に行い大きな問題もなく実習を行うことができた。引き続き、感染状況を見極めながら施設とは情報交換を行い、円滑な実習を行うことを課題とする。

3) 授業に関すること

前年度より構築したICT環境を活用して、通常授業とZOOMによる授業を状況によって使い分け、コロナウイルス蔓延による厳しい状況下においても学生の単位修得に向けた支援が実施できた。

授業評価は外部講師・専任教員ともに実施している。評価方法を記名式での書面を用いての提出から、学生にとってより簡便な無記名式Googleフォームの提出に変更をした。その結果、学生は自由に意見を述べるのが可能となり、信頼性と妥当性のあるデータ収集ができたと考える。評価結果のフィードバックが課題であったが、今年度は教員にフィードバックを行い、個々の課題抽出に役立ったと考える。評価結果を踏まえ課題を各領域で共有し、具体的な改善計画の立案も引き続きの課題である。

Ⅲ. 入学・卒業対策

【内容】

1. より多くの応募者を確保することに努めているか。
2. 国試の合格率が 100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。
3. 質の高い卒業生を多く排出するための努力を行っているか。
4. 卒業生への支援を行っているか。

【評価】

5 点満点中 4.3 であり、令和 2 年度より 0.3 ポイント高い評価であった。

1) 応募者確保に関すること

入試委員会で募集についての広報内容を検討し、新型コロナウイルスの影響で一部内容の変更（ZOOM による開催）は生じたが、オープンキャンパス・学校説明会を定期的に実施することができた。また、新たな試みとして夜間帯の相談会を実施した。その結果、入学志願者数は前年比 35.18%増につながったため、応募者確保に関しては一定の成果が表れたと考える。しかし、令和 4 年より定員を 40 名から 80 名に増員したため、質の高い入学生を確保するために、さらなる応募者確保の方略を検討する必要があると考える。

入学者の出身校との関係性強化は、一部の学校ではあるが、引き続き学生の情報共有を行うことができた。今年度より入学実績のある高校を対象とした指定校推薦制度を導入し、4 名の入学生を確保することができた。指定校推薦の課題としては、周知時期が遅かったことや、推薦条件の見直しが挙げられた。最終的に定員 80 名を満たすことはできなかったが、75 名の入学生を確保することができた。今後は定員充足を課題とし、入試委員・広報委員がより密に情報共有を行い連携する必要がある。

2) 質の高い卒業生の輩出に関すること

第 111 回看護師国家試験の合格率は前年同様、2 年連続で 100%合格となった。前年度の「国家試験 100%合格プロジェクト」を継続して行ったが、前年度の国家試験対策の評価に基づき、修正・計画した内容で教職員一丸となって学生支援をした。今後も引き続き、合格率 100%を目指したい。

個別学生支援として、成績が振るわない学生には、面接や必要に応じて保護者との三者面談を実施した。さらに ICT を活用した独自の課題学習を行い、その評価を指導計画に活用し、継続した学生指導を行っている。また、課外時間でも学習・技術指導を行い学生への支援を行っている。個々の学生の状況に応じた支援をした結果、退学者数は半減したため、引き続き個々の学生に対し、学習継続に向けた支援を行ない、退学率 2%以下（令和 3 年度退学率 5%）を目指したい。

3) 卒業生への支援に関すること

前年同様、卒業 4 ヶ月後にホームカミングデイを実施し、参加した卒業生からも高い評価を得ている。また、ホームカミングデイ以外でも卒業生が来校し、仕事の上での悩みを打ち

明けることで、就業継続に繋がっている。既卒者に対する就職相談も実施しており、実習病院への就職者も多いため、卒業生へのサポート体制は構築できていると考える。

コロナ禍のため、例年のように入学式・戴帽式・卒業式に卒業生が臨席することができなかった。しかし、学内実習の SP を依頼する等、卒業生が帰属意識を持てるような関りを行うことができた。

課題としては、次年度は看護学科創立 30 周年の節目でもあるため、引き続き卒業後も継続して学生支援ができるような同窓会システムの構築が必要である。

IV. 学生生活への支援

【内容】

1. 進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。
2. 経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。
3. 学生の身体的側面の健康確保に努めているか。
4. サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。

【評価】

5 点満点中 3.6 であり、令和 2 年度より 0.1 ポイント低い評価であった。

1) 学生相談に関すること

入学時よりキャリア相談を行うとともに、適宜情報提供を行っている。前年度新型コロナウイルスの影響で実施することができなかった就職説明会を、リモートにて実施することができた。

精神的支援として、カウンセラーが週 1～2 回定期的に来校し、学生の精神的側面から学業継続をサポートしている。前年に引き続き新入学生は、新型コロナウイルスの影響下で、学生生活に対する不安が大きいのではないかと考え、全員カウンセラーと面談する時間を設け、カウンセリングを受けやすい環境づくりを行った。

経済的支援として、前年同様職業訓練給付金制度・奨学金制度・高等教育就学支援制度等の活用に関して説明・相談を行い学業継続への支援を行うことができた。

身体的支援として、前年作成した新型コロナウイルスの対応マニュアルを感染状況に応じて見直しを重ねた。登校時は毎朝担任により学生の健康観察・確認を行い、さらに非接触人感センサー型体温計・足踏み式アルコール消毒器を増設し、感染予防に留意した。その結果、新型コロナウイルス感染者は散発したが、学級閉鎖・学校閉鎖に繋がるようなクラスターの発生には至らなかった。学生のコロナウイルスワクチン接種に関しては、2、3 年生は実習病院に協力を要請し、早期に実施することができた。1 年生に関しては姉妹校である浦和学院高校と協力し、職域接種を実施し希望者に接種することができた。以上のことから、感染防止対策に関しては効果的に機能しているため、今後も継続していく。また、年に 1 回健康診断を行い、受診行動やその後の経過観察が必要な学生には個別で対応をした。引き続き学生の健康支援を行う必要がある。

2) 学生の活動に関すること

学生の自主的な活動としては、講堂にバスケットゴール、卓球台等の環境は整えてあるが、学生自ら活動するといった行動に結びついていないため、引き続きの課題とする。学生の活動に関することのポイントが低いと、重点的な課題として取り組むことが必要であると考える。

V. 管理運営・財政

【内容】

1. 予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。
2. 学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。
3. 災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯、交通安全意識の向上に努めているか。
4. 学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。

【評価】

5点満点中 3.9 であり、令和2年度より 0.2 ポイント高い評価であった。

1) 危機管理に関すること

防災訓練は、新型コロナウイルス感染症の影響および新校舎への引っ越し等で実施できなかったが、災害時の安否確認のため、学生には校舎外に出る際は届け出るよう指導を行った。新校舎にての防災訓練を実施することが課題である。

災害時の非常用物品は補充し備蓄している。引き続き、前年度同様近隣との協働が必要であると考えるため、より地域との連携を視野に入れた防災への体制作りが求められる。また、前年に引き続き、教職員の緊急連絡訓練等を実施していないため、今後の課題とする。

2) 情報管理に関すること

前年同様「SNS 利用に関する規程」に基づき、入学時や進級時に学生に対して個人情報の守秘義務の重要性についての説明を行い、学生に「遠隔授業・SNS 利用に関する誓約書」の記入を依頼した。しかし、何名かの学生は授業の録画を行う等の違反行動が見られたため、引き続きの情報管理の必要性について指導することを課題としたい。

実習においては、受け持ち患者への倫理的配慮として文書によりガイドラインを作成しているが、今年度実習施設の職員に対して学生が倫理的配慮に欠けた行動をとるといった事案が生じたため、新たに施設に対しての同意書を作成した。引き続き患者同様、施設や施設職員に対しても倫理的行動が必要であることを指導する必要がある。

3) 人権に関すること

前年度の課題とした、ハラスメント学習会を実施することができた。継続した学習が必要であり、引き続きの課題としたい。

4) 財政に関すること

年間計画に基づき計画的に予算・事業執行を行っている。HP 上で財務状況の公表も行っているが、教職員が意識的に財政に関して考えることが不足している。また、前年度同様、

教職員それぞれが経費削減対策を行っているとは言えないため、引き続きの課題としていく。

5) その他

前年度の課題とした学生の要望への回答を公開し、改善に努めることができた。

VI. 施設設備

【内容】

- 1.施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。
- 2.教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。
- 3.学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。
- 4.図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。
- 5.実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。

【評価】

5点満点中4.0であり、令和2年度より0.1ポイント高い評価であった。

校舎の改修を行い、教育目標を達成する上で十分な設備、教材を整えることができた。看護実習室は、中央配管システムの設置や可動式扉で4床室に変更できる等、より臨床に近い設備となった。輸液ポンプ・シリンジポンプも多数導入し教材の充実を図ることができた。また、母性・小児実習室を新設し、分娩シミュレーターの導入も行った。更に在宅看護実習室を改修し、学習環境・教材の整備ができた。

学生の自主学習スペースは確保できているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分な活用はできなかった。実習室も指定規則に定められたスペース、設備は確保している。施設は、時間外や長期休業中も使用可能であるが、こちらも感染症の影響下で通常通りの活用ができなかった。

図書管理に関しては、課題であった司書を配置することでリファレンスサービスを行うことができた。貸し出しに関しても、最新の図書貸出システムを導入し学生の利便性を図ることができた。今後は、計画的な図書購入や図書だより等の発行を課題とする。

VII. 教職員の育成

【内容】

- 1.学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。
- 2.学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。
- 3.教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。

【評価】

5点満点中3.2であり、令和2年度より0.1ポイント高い評価であった。

埼玉県の教員養成研修に2名派遣し、教員の質の向上を図ることができた。さらに研修の成果を伝達講習にて発表する機会を設け、教員間で学びの共有をすることができた。

職場内研修としては、学校の抱えている問題として学生対応が挙げられたため、外部講師に依頼し、ハラスメント学習会を実施した。

教員の研究活動に関しては、学会発表をした教員もいるがほとんどの教員が活動できていないため、第一段階として研究計画書の作成を促し、実施することができた。今後は、研究を開始し、学会発表まで行えることを課題とする。また、前年同様、教員の授業参観制度も実施できていないため引き続き課題とする。

VIII. 広報・地域活動

【内容】

1. 学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。
2. 地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。

【評価】

5点満点中3.7であり、令和2年度より0.5ポイント高い評価であった。

1) 広報活動に関すること

ホームページをリニューアルし、学校の存在や特色を周知することができている。また、Instagram・Facebook等のSNSを利用した情報公開を行い、積極的な広報活動ができている。さらに、指定校推薦制度の導入に伴い、近隣の高校および予備校への挨拶回り等の広報活動を、教員・事務職員が協力して実施することができた。しかし、広報活動の評価を行い、その結果を活かした広報計画の策定が行われていないため、引き続きの課題としていく。

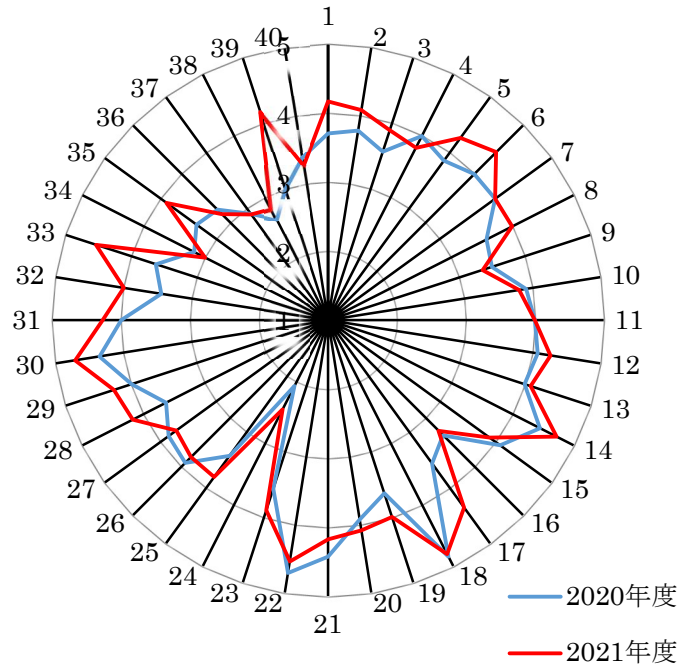
2) 地域活動に関すること

地域ボランティアとしての登録を行い、学生・教員にて学校周辺の清掃活動を新型コロナウイルス感染症の影響下ではあるが、年間5回実施することができた。

地域との連携を図ることを目的とし、近隣の小学校を対象に、教育活動への協力を申し出て新開小学校から2年生の訪問があり、自校の学生と交流図ることができた。引き続き地域との連携方法を思案していく必要があると考える。

前年同様、姉妹校の高等学校の保健医療クラスに対し、5回/年程度、教員の派遣や当校での看護技術体験等を行ない、教育活動への協力を行った。さらに、高等学校で実施したコロナワクチンの職域接種に教職員と学生が協力をし、地域への奉仕活動をすることができた。医療系の学校である自校の存在意義を考え、今後も引き続き地域社会の一員として地域への貢献・奉仕活動・連携の工夫を行うことが課題である。

細目の評価結果



最終結果

